

利根川水運の要・関宿を巡る旅!

●久喜麗和会・春日部地区浦高会の小旅行!

きょう4月21日(日)は「久喜麗和会/春日部地区浦高会/小旅行 2024 晩春『利根川水運の要・関宿を巡る旅』」でした。この小旅行は、治水に関心の深い久喜麗和会の眞田忠雄会長(10回)のリクエストから根本崇・当会前会長(16回)により企画されたものですが、コロナ禍で延期となっており4年ぶりに実施できたものです。今回は、大宮浦高会の今村正道会長(13回)、JA南彩営農部農支援課の穂山直樹様をゲストに迎え、久喜麗和会から3名、春日部地区浦高会から9名の合計14名で楽しく開催させていただきました。

今回のメインは、利根川東遷事業の様子と関宿水閘門の果たしてきた役割を勉強するとともに、会員相互の懇親を深めることを目的に実施させていただきました。そこで、最初に国土交通省関東地方整備局江戸川河川事務所所長の小池聖彦様から「利根川東遷事業と関宿水閘門の役割」についてお話を伺い、現地を見学し、関宿城博物館でボランティアガイドの方から利根川東遷事業と関宿藩、関宿の歴史などを学ばせていただきました。約2時間の勉強の後は、境町の坂東離宮にて昼食会を開催し、親睦を深めました。



博物館で小池所長から説明を受ける



水閘門の上でご担当から説明を受ける



8か所の水門で江戸川江の水量調整



閘門は水位が同じで開かれている



◆**関宿水閘門(すいこうもん)**: 1641年に行われた利根川東遷事業により江戸川と利根川が結ばれ、関東の舟運は飛躍的に発展した。明治以前の江戸川の頭流部には、利根川からの流入を減じるために「棒出し」と呼ばれる突堤が築かれていた。1911年(明治44年)の江戸川改修工事に併せて、棒出しに代わって江戸川へ流入する水量を調節する**水門**と、水位調整による河川舟運の保護を目的とした**閘門**の建設が計画され、1918年(大正7年)に着工し、1927年(昭和2年)3月31日に完成した。閘門は鋼鉄製のマイターゲート式で、幅12メートル、長さ143メートルの大きさの2つの門を手動で操作する。関宿水門の建設は煉瓦造りからコンクリート造りへと建設技術が変化する過渡期に行われた。多くの部分はコンクリートで作られているが、隅石など一部に石張りによる煉瓦造りの様式が見られ、閘門や水門の建築史を知る上での重要な土木遺産である。2003年には土木学会選奨土木遺産に選定されている。〔ウィキペディアより〕

◆**利根川の東遷**: 古来、利根川は太平洋ではなく、江戸湾(現在の東京湾)に注いでいました。現在のような流路となったのは、数次に渡る瀬替えの結果で、近世初頭から行われた河川改修工事は利根川東遷事業と呼ばれ、現在の利根川の骨格がつけられました。東遷事業の目的は、江戸を利根川の水害から守り、新田開発を推進すること、舟運を開いて東北と関東との交通・輸送体系を確立することなどに加えて、東北の雄、伊達政宗に対する防備の意味もあったといわれています。〔利根川上流河川事務所HPより〕

